

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	成田国際福祉専門学校
設置者名	学校法人 秋葉学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
商業実務専門課程	医療秘書学科	夜・通信	180 時間	160 時間	
社会福祉専門課程	介護福祉士学科	夜・通信	180 時間	160 時間	
	保育士学科	夜・通信	180 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.naritakokusaifukushi.jp

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	成田国際福祉専門学校
設置者名	学校法人 秋葉学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.naritakokusaifukushi.jp

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	経営コンサルタント	2022.4.1～ 2024.3.31	学園経営に関する 経理・財務知識・経 験を活かし運営に 寄与することを期 待
非常勤	前職 千葉県職員	2022.4.1～ 2024.3.31	学園教職員、学生に 関する健康、衛生管 理について、前職の 経験を活かし寄与 することを期待
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	成田国際福祉専門学校
設置者名	学校法人 秋葉学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>○保育士学科 厚生労働省指定保育士養成学科であるため、児童福祉法施行規則の指定保育士養成施設の修業教科目及び単位数並びに履修方法により、授業科目が設置されており、学校独自の教科目については、保育現場や非常勤教員及び常勤教員の意見を学科主任がまとめ、校長許可により設置している。全教科授業計画（シラバス）が作成されており、児童福祉法施行規則による授業科目については、担当する資格要件を持った教員が担当、法律で定める授業の方法及び、到達目標、成績評価の方法等で実施されている。学校独自の科目についても、上記の通りである。公表については、学校説明会、オープンキャンパス、4月入学オリエンテーション及びホームページにて公表する。</p> <p>○介護福祉士学科 厚生労働省介護福祉士養成施設の学科であるため、社会福祉士及び介護福祉士法施行規則により、修業科目の時間数及び履修方法が設置されており、学校独自の教科目については、現場や非常勤教員及び常勤教員の意見を学科主任がまとめ、校長許可により設置している。全教科授業計画（シラバス）が作成されており、社会福祉士及び介護福祉士法施行規則による授業科目については、担当する資格要件を持った教員が担当、法律で定める授業の方法及び、到達目標、成績評価の方法等で実施されている。学校独自の科目についても、上記の通りである。公表については、学校説明会、オープンキャンパス、4月入学オリエンテーション及びホームページにて公表する。</p> <p>○医療秘書学科 本学科は、医療保険請求事務及び医師補助業務ができる人材養成の学科であり、カリキュラム及び授業計画（シラバス）の作成については、現場からの要望、専門家からの意見、業務に従事するための資格要件等を十分に検討し作成されている。全教科授業計画（シラバス）が作成されており、教科担当教員ごとに学科主任との内容確認打ち合わせ（毎年度3月）を行い、今年度の到達目標の確認と次年度の授業計画及び資格試験受験の予定の確認を行っている。これらについての公表は、学校説明会、オープンキャンパス、4月入学オリエンテーション及びホームページにて公表する。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.naritakokusaifukushi.jp

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

○学修意欲の把握

全学科、担任制を取っており学生の出欠席・遅刻・早退の管理及び授業態度や学修意欲等を把握している。また常勤教員・非常勤教員は、各授業終了後に授業報告書を作成し、教務主任に提出。

欠席が多い学生・成績が不良の学生又は学習意欲のない学生等には、第1段階（学生・担任との面談）第2段階（学生・保護者・担任との三者面談）第3段階（学生・保護者・担任・教務主任との面談）第4段階（学生・保護者・教務主任・校長との面談）等の段階別面談指導を行い中途退学の無いよう努めている。また常に各学科単位で常勤教員によるクラス状況の連絡を朝礼後及び放課後におこなっている。

○試験及び履修の認定について

定期試験は、前期定期試験を9月、後期定期試験は2月に実施。

定期試験に関する出席時間数は、各学科下記のようになっている。

- ・医療秘書学科、保育士学科

各科目の出席時間数が定める時間数の5分の4に満たない者は、当該科目の履修の認定をしない。

- ・介護福祉士学科

指定規則に掲げる各科目の出席時間数が、指定規則に定める時間数の3分の2に満たない者は、当該科目の履修の認定をしない。

実習については、実習時間数が定める時間数の5分の4に満たない者は、当該科目の履修の認定をしない。

※出席時間数の不足者に対しては、各学科とも各学科の教員会議を開き校長許可により、補修時間を設け実施し時間数による定期試験未受験がないよう配慮している。

定期試験成績評価（全学科共通）

成績評価の基準は、定期試験（前期1回・後期1回）の他、平常点（出席点、課題レポート、作品、実技試験、小テスト等）を含み下記評価点により評価。

「A」 100～80点（合格） 「B」 79～70点（合格）

「C」 69～60点（合格） 「D」 59点以下（不合格）

尚、成績評価表記入用紙備考欄にその評価基準が明記される。

定期試験の他に各学科、科目により習熟度を確認するための教科担当実施の小テストやレポートがある。成績評価に加味する場合、成績評価用紙備考欄に評価基準を明記し、教務主任に提出し許可を受ける。

※定期試験が事情により受験できない場合は、その旨を担当を通じて教務部に届出し校長の許可を受け、追試験を受験する事ができる。

この場合の成績評価は、上記とする。

※不合格者に対しては、校長の許可を受け再試験を実施する。

不合格者に対しては、各学科の教科担当と教務担当の打ち合わせ後に、再試験の試験範囲の詳細な説明がおこなわれ、再試験を実施する。この場合の成績評価は、合格の場合60点とし、レポート課題の場合も同様とする。また教科によっては、再授業・再試験を行い不合格者が出ないように努めている。

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>定期試験成績評価（全学科共通）</p> <p>成績評価の基準は、定期試験（前期1回・後期1回）の他、平常点（出席点、課題レポート、作品、実技試験、小テスト等）を含み下記評価点により評価。</p> <p>「A」 100～80点（合格） 「B」 79～70点（合格） 「C」 69～60点（合格） 「D」 59点以下（不合格）</p> <p>尚、成績評価表記入用紙備考欄にその評価基準が明記される。</p> <p>定期試験は、各学年に修了すべき学科目について、前期科目・後期科目・通年科目に分け、前期定期試験・後期定期試験を実施している。</p> <p>合格者は、当該科目の修了を認定する。</p> <p>通年科目については、前期定期試験評価と後期定期試験評価の平均値とし合格者は当該科目の修了を認定する。</p> <p>実習については、上記評価点による実習の成績により認定する。</p> <p>また、各教科目担当者は、前期定期試験と後期定期試験ともに、教科ごとの成績評価記入用紙に学生の出席率と成績評価点数を記入し、クラスの平均点を算出し、上記「A」「B」「C」「D」の成績評価の人数分布を把握する。</p> <p>さらに、成績評価記入用紙備考欄に成績評価基準が明記される。</p> <p>※定期試験が事情により受験できない場合は、その旨を担任を通じて教務部に届出をし校長の許可を受け、追試験を受験することができる。</p> <p>この場合の成績評価は、上記とする。</p> <p>※不合格者に対しては、校長の許可を受け再試験を実施する。</p> <p>不合格者に対しては、各学科の教科担当と教務担当の打ち合わせ後に、再試験の試験範囲の詳細な説明がおこなわれ、再試験を実施する。この場合の成績評価は、合格の場合60点とし、レポート課題の場合も同様とする。また教科によっては、再授業・再試験を行い不合格者が出ないように努めている。</p> <p>公表については、学校説明会、オープンキャンパス、4月入学オリエンテーション及びホームページにて公表する。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.naritakokusaifukushi.jp</p>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校は、学則第1条で人間教育を基本とし、国際社会における知識と知恵を授け、国際経済ならびに健康・医療・福祉に貢献する人材の育成を目的とし設立され、『人間教育+各専門教育』を基本としての教育課程を本学の特色としている。人間教育の一環として学校が定める各行事や団体活動が年間教育日程で組み立てられており、その参加出席が卒業に必要な要件となっている。(入学式、健康診断、体育祭、サマーキャンプ、就職研修など)</p> <p>これに、本学の定める各専門の教育課程による各学年ごとの修了すべき学科について試験を行い、合格者に対して当該科目の修了を認定し、本学所定の修業年限以上在学し課程を修了した者に卒業証書を授与することとなっている。</p> <p>公表については、学校説明会、オープンキャンパス、4月入学オリエンテーション及びホームページにて公表する。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>https://www.naritakokusaifukushi.jp</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	成田国際福祉専門学校
設置者名	学校法人 秋葉学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.naritakokusaifukushi.jp
収支計算書又は損益計算書	https://www.naritakokusaifukushi.jp
財産目録	https://www.naritakokusaifukushi.jp
事業報告書	https://www.naritakokusaifukushi.jp
監事による監査報告（書）	https://www.naritakokusaifukushi.jp

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門	医療秘書学科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,800/120 単位時間/単位	1650/110 単位時間/単位	30/2 単位時間/単位	120/8 単位時間/単位	0/0 単位時間/単位	0/0 単位時間/単位
			1,800/120 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90人		12人	0人	4人	5人	9人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>本学科は、医療保険請求事務及び医師補助業務ができる人材養成の学科であり、カリキュラム及び授業計画（シラバス）の作成については、現場からの要望、専門家からの意見、業務に従事するための資格要件等を十分に検討し作成されている。</p> <p>全教科授業計画（シラバス）が作成されており、教科担当教員ごとに教務主任との内容確認打ち合わせ（毎年度3月）を行い、今年度の到達目標の確認と次年度の授業計画及び資格試験受験の予定の確認を行っている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>定期試験成績評価（全学科共通）</p> <p>成績評価の基準は、定期試験（前期1回・後期1回）の他、平常点（出席点、課題レポート、作品、実技試験、小テスト等）を含み下記評価点により評価。</p>

<p>「A」 100～80点（合格） 「B」 79～70点（合格） 「C」 69～60点（合格） 「D」 59点以下（不合格）</p> <p>尚、成績評価表記入用紙備考欄にその評価基準が明記される。 定期試験は、各学年に修了すべき学科目について、前期科目・後期科目・通年科目に分け、前期定期試験・後期定期試験を実施している。 合格者は、当該科目の修了を認定する。 通年科目については、前期定期試験評価と後期定期試験評価の平均値とし合格者は当該科目の修了を認定する。 実習については、上記評価点による実習の成績により認定する。 また、各教科目担当者は、前期定期試験と後期定期試験ともに、教科ごとの成績評価記入用紙に学生の出席率と成績評価点数を記入し、クラスの平均点を算出し、上記「A」「B」「C」「D」の成績評価の人数分布を把握する。</p> <p>さらに、成績評価記入用紙備考欄に成績評価基準が明記される。 ※定期試験が事情により受験できない場合は、その旨を担当を通じて教務部に届出をし校長の許可を受け、追試試験を受験する事ができる。 この場合の成績評価は、上記とする。 ※不合格者に対しては、校長の許可を受け再試験を実施する。 不合格者に対しては、各学科の教科担当と教務担当の打ち合わせ後に、再試験の試験範囲の詳細な説明がおこなわれ、再試験を実施する。この場合の成績評価は、合格の場合60点とし、レポート課題の場合も同様とする。また教科によっては、再授業・再試験を行い不合格者がでないよう努めている。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p>
<p>(概要)</p> <p>本校は、学則第1条で人間教育を基本とし、国際社会における知識と知恵を授け、国際経済ならびに健康・医療・福祉に貢献する人材の育成を目的とし設立され、『人間教育+各専門教育』を基本としての教育課程を本学の特色としている。人間教育の一環として学校が定める各行事や団体活動が年間教育日程で組まれており、その参加出席が卒業に必要な要件となっている。（入学式、健康診断、体育祭、サマーキャンプ、就職研修など）</p> <p>これに、本学の定める各専門の教育課程による各学年ごとの修了すべき学科目について試験を行い、合格者に対して当該科目の修了を認定し、本学所定の修業年限以上在学し課程を修了した者に卒業証書を授与することとなっている。</p>
<p>学修支援等</p>
<p>(概要)</p> <p>秋葉学園奨学生制度（給付型）、指定校入学・A0入学特待奨学制度</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
8人 (100%)	0人 (0%)	8人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 病院			
(就職指導内容) 就職研修、個別指導、就職フェアへの参加			
(主な学修成果（資格・検定等）) 診療報酬請求事務能力、ワープロ、簿記検定等			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
13人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 面談、個人指導、補講等を行う。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		社会福祉専門	介護福祉士学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,977/109 単位時間/単位	1360/90 単位時間 /単位	120/8 単位時間 /単位	497/11 単位時間 /単位	0/0 単位時間 /単位	0/0 単位時間 /単位
			1,977/109 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160人	62人	20人	6人	14人	20人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>厚生労働省介護福祉士養成施設の学科であるため、社会福祉士及び介護福祉士法施行規則により、修業科目の時間数及び履修方法が設置されており、学校独自の教科目については、現場や非常勤教員及び常勤教員の意見を学科主任がまとめ、校長許可により設置している。</p> <p>全教科授業計画（シラバス）が作成されており、社会福祉士及び介護福祉士法施行規則による授業科目については、担当する資格要件を持った教員が担当、法律で定める授業の方法及び、到達目標、成績評価の方法等で実施されている。</p> <p>学校独自の科目についても、上記の通りである。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>定期試験成績評価（全学科共通）</p> <p>成績評価の基準は、定期試験（前期1回・後期1回）の他、平常点（出席点、課題レポート、作品、実技試験、小テスト等）を含み下記評価点により評価。</p> <p>「A」 100～80点（合格） 「B」 79～70点（合格） 「C」 69～60点（合格） 「D」 59点以下（不合格）</p> <p>尚、成績評価表記入用紙備考欄にその評価基準が明記される。</p> <p>定期試験は、各学年に修了すべき学科目について、前期科目・後期科目・通年科目に分け、前期定期試験・後期定期試験を実施している。</p> <p>合格者は、当該科目の修了を認定する。</p> <p>通年科目については、前期定期試験評価と後期定期試験評価の平均値とし合格者は当該科目の修了を認定する。</p> <p>実習については、上記評価点による実習の成績により認定する。</p> <p>また、各教科目担当者は、前期定期試験と後期定期試験ともに、教科ごとの成績評価記入用紙に学生の出席率と成績評価点数を記入し、クラスの平均点を算出し、上記「A」「B」「C」「D」の成績評価の人数分布を把握する。</p> <p>さらに、成績評価記入用紙備考欄に成績評価基準が明記される。</p> <p>※定期試験が事情により受験できない場合は、その旨を担任を通じて教務部に届出をし校長の許可を受け、追試試験を受験する事ができる。</p> <p>この場合の成績評価は、上記とする。</p> <p>※不合格者に対しては、校長の許可を受け再試験を実施する。</p> <p>不合格者に対しては、各学科の教科担当と教務担当の打ち合わせ後に、再試験の試験範囲の詳細な説明がおこなわれ、再試験を実施する。</p>

<p>この場合の成績評価は、合格の場合60点とし、レポート課題の場合も同様とする。また教科によっては、再授業・再試験を行い不合格者が出ないように努めている。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p>
<p>(概要)</p> <p>本校は、学則第1条で人間教育を基本とし、国際社会における知識と知恵を授け、国際経済ならびに健康・医療・福祉に貢献する人材の育成を目的とし設立され、『人間教育+各専門教育』を基本としての教育課程を本学の特色としている。人間教育の一環として学校が定める各行事や団体活動が年間教育日程で組み立てられており、その参加出席が卒業に必要な要件となっている。（入学式、健康診断、体育祭、サマーキャンプ、就職研修など）</p> <p>これに、本学の定める各専門の教育課程による各学年ごとの修了すべき学科について試験を行い、合格者に対して当該科目の修了を認定し、本学所定の修業年限以上在学し課程を修了した者に卒業証書を授与することとなっている。</p>
<p>学修支援等</p>
<p>(概要)</p> <p>秋葉学園奨学生制度（給付型）、指定校入学・A0入学特待奨学制度</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
19人 (100%)	0人 (0%)	19人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 介護施設（特養・老健等へ全員）			
(就職指導内容) 就職研修、個別指導、就職フェアへの参加			
(主な学修成果（資格・検定等）) 介護福祉士（受験資格）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
42人	3人	7.1%
(中途退学の主な理由) 一身上の都合、進路変更等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 面談、個人指導、補講等を行う。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		社会福祉専門	保育士学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,250/95 単位時間/単位	735/49 単位時間 /単位	1,230/40 単位時間 /単位	360/8 単位時間 /単位	0/0 単位時間 /単位	45/1 単位時間 /単位
			2,370/98 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
100人		32人	0人	5人	17人	22人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>厚生労働省指定保育士養成学科であるため、児童福祉法施行規則の指定保育士養成施設の修業教科目及び単位数並びに履修方法により、授業科目が設置されており、学校独自の教科目については、保育現場や非常勤教員及び常勤教員の意見を学科主任がまとめ、校長許可により設置している。全教科授業計画（シラバス）が作成されており、児童福祉法施行規則による授業科目については、担当する資格要件を持った教員が担当、法律で定める授業の方法及び、到達目標、成績評価の方法等で実施されている。学校独自の科目についても、上記の通りである。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>定期試験成績評価（全学科共通）</p> <p>成績評価の基準は、定期試験（前期1回・後期1回）の他、平常点（出席点、課題レポート、作品、実技試験、小テスト等）を含み下記評価点により評価。</p> <p style="text-align: center;">「A」 100～80点（合格） 「B」 79～70点（合格） 「C」 69～60点（合格） 「D」 59点以下（不合格）</p> <p>尚、成績評価表記入用紙備考欄にその評価基準が明記される。</p> <p>定期試験は、各学年に修了すべき学科目について、前期科目・後期科目・通年科目に分け、前期定期試験・後期定期試験を実施している。</p> <p>合格者は、当該科目の修了を認定する。</p> <p>通年科目については、前期定期試験評価と後期定期試験評価の平均値とし合格者は当該科目の修了を認定する。</p> <p>実習については、上記評価点による実習の成績により認定する。</p> <p>また、各教科目担当者は、前期定期試験と後期定期試験ともに、教科ごとの成績評価記入用紙に学生の出席率と成績評価点数を記入し、クラスの平均点を算出し、上記「A」「B」「C」「D」の成績評価の人数分布を把握する。</p> <p>さらに、成績評価記入用紙備考欄に成績評価基準が明記される。</p> <p>※定期試験が事情により受験できない場合は、その旨を担当を通じて教務部に届出をし校長の許可を受け、追試試験を受験する事ができる。</p> <p>この場合の成績評価は、上記とする。</p> <p>※不合格者に対しては、校長の許可を受け再試験を実施する。</p> <p>不合格者に対しては、各学科の教科担当と教務担当の打ち合わせ後に、再試験の試験範囲の詳細な説明がおこなわれ、再試験を実施する。この場合の成績評価は、合格の場合60点とし、レポート課題の場合も同様</p>

<p>とする。また教科によっては、再授業・再試験を行い不合格者が出ないよう努めている。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p>
<p>(概要)</p> <p>本校は、学則第1条で人間教育を基本とし、国際社会における知識と知恵を授け、国際経済ならびに健康・医療・福祉に貢献する人材の育成を目的とし設立され、『人間教育＋各専門教育』を基本としての教育課程を本学の特色としている。人間教育の一環として学校が定める各行事や団体活動が年間教育日程で組み立てられており、その参加出席が卒業に必要な要件となっている。（入学式、健康診断、体育祭、サマーキャンプ、就職研修など）</p> <p>これに、本学の定める各専門の教育課程による各学年ごとの修了すべき学科について試験を行い、合格者に対して当該科目の修了を認定し、本学所定の修業年限以上在学し課程を修了した者に卒業証書を授与することとなっている。</p>
<p>学修支援等</p>
<p>(概要)</p> <p>秋葉学園奨学生制度（給付型）、指定校入学・A0入学特待奨学制度</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
17人 (100%)	0人 (0%)	17人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 保育園、児童養護、乳児院等			
(就職指導内容) 就職研修、個別指導、就職フェアへの参加			
(主な学修成果（資格・検定等）) 保育士、救命救急、介護職員初任者研修等			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
37人	2人	5.4%
(中途退学の主な理由) 一身上の都合、進路変更等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 面談等、個人指導、補講等を行う。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
医療秘書学科	180,000 円	900,000 円	0 円	
介護福祉士学科	180,000 円	1,050,000 円	0 円	
保育士学科	180,000 円	1,000,000 円	0 円	
修学支援 (任意記載事項)				
秋葉学園奨学生制度 (給付型)、指定校入学・A0 入学特待奨学制度				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.naritakokusaifukushi.jp		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>学校関係者評価委員会の構成 生徒・卒業生、関係業界、専修学校団体・関係団体、中学校・高等学校等、保護者・地域住民、所轄庁等の学校関係者などを本校自らが選任する。</p> <p>評価項目の設定 本校は職業実践的教育を主とする私立専門学校であるため、他の高等教育機関である大学とは異なる評価基準を設けおり、学校運営、教育活動など全般的な事項についてのみならず国際交流の項目を追加している。 教育理念、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の募集と受け入れ、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献、国際交流</p> <p>学校関係者評価委員会の目的 本校の教職員が本校の理念・目標に照らして自らの教育活動について自己点検・自己評価を行い、学校運営に関する外部の学校関係者を中心とした学校関係者評価委員会において、自己評価の実施状況を踏まえ教育活動その他の学校運営の状況について専門的・客観的観点から課題や、課題の改善に向けた方策等の取り組み状況に関する意見・提案を受けることにより、学校運営及び教育内容の充実・向上を図り、本校の振興・発展に資することを目的とする。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
神田外語大学 非常勤講師	2021. 4. 1～2023. 3. 31	関係業界
公益財団法人 成田市スポーツ・みどり振興財団	2021. 4. 1～2023. 3. 31	卒業生 地域住民
成田市観光協会 SP 委員	2021. 4. 1～2023. 3. 31	関係業界

田宮行政書士事務所	2021. 4. 1～2023. 3. 31	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.naritakokusai Fukushi. jp		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.naritakokusai Fukushi. jp
--